

アメリカ・ブッシュ政権と揺れる中東

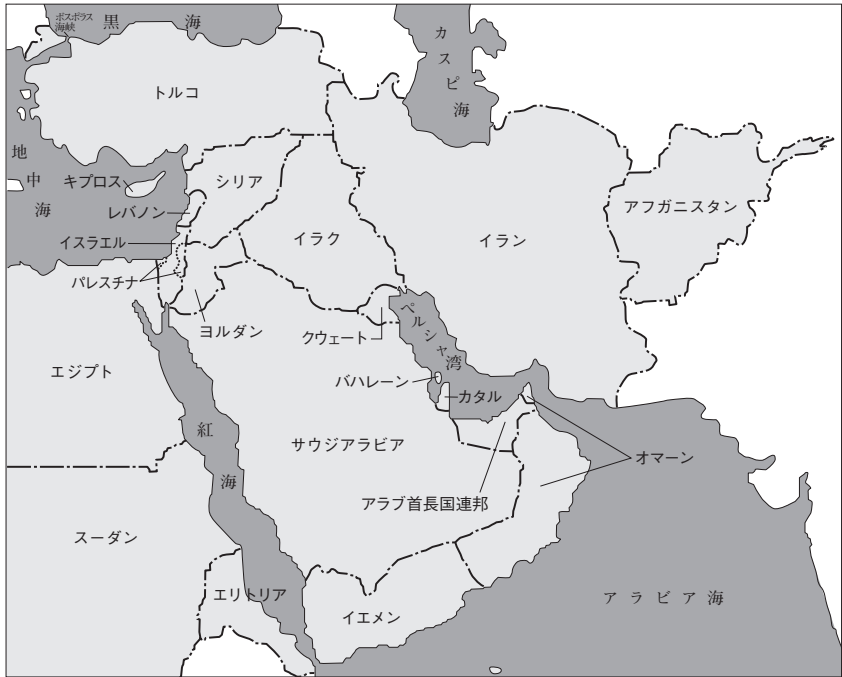
福田安志 編



アメリカ・ブッシュ政権と 揺れる中東

福田安志

編



序章 ■ イラク戦争後の中東と本書……………	福田安志 ■	1
------------------------	--------	---

- | | |
|-------------|---|
| Ⅰ イラク戦争後の中東 | 2 |
| Ⅱ 本書の企画と構成 | 8 |

第1章 ■ 二期目のブッシュ政権とその中東政策……………	立山良司 ■	11
------------------------------	--------	----

はじめに 12

- | | |
|--------------------|----|
| Ⅰ アメリカと中東 | 13 |
| Ⅱ 九・一一の衝撃と「テロとの戦い」 | 15 |
| Ⅲ ブッシュ政権二期目の中東政策 | 18 |
| Ⅳ 広がる反米感情 | 24 |
| おわりに | 26 |

第2章 ■ アメリカの世論と中東・イスラーム……………	西村陽一 ■	31
-----------------------------	--------	----

はじめに 32

- | | |
|----------------------|----|
| Ⅰ イスラームは暴力を奨励する？ | 33 |
| Ⅱ ネオコンと同盟を築いたキリスト教右派 | 35 |
| Ⅲ アメリカ・ムスリムの苦悩と広報外交 | 37 |

第3章 ■ アル・ジャズイーラ・テレビとアメリカ……………	渡邊正晃 ■	41
-------------------------------	--------	----

はじめに 42

- | | |
|-----------------------------|----|
| Ⅰ アル・ジャズイーラ設立の背景——ハマド政権の方向性 | 43 |
|-----------------------------|----|

II	アメリカとの対立——スクープ映像の代償	46
III	反米感情の改善に向けた試み——アル・フッラの設立 おわりに	52 56

第4章 ■ 中東におけるイスラーム主義運動の現状……………ディアアラシユワーン ■ 61

はじめに	62	
I	非暴力的、政治的なイスラーム主義運動の現状	63
II	武装ジハード集団の状況	73
III	テロの新たな波の特徴	77

第5章 ■ イラク——袋小路に陥るアメリカの対イラク政策……………酒井啓子 ■ 83

はじめに	84	
I	シーア派イスラーム主義政党の台頭	85
II	イラク社会のイスラーム化	89
III	スンナ派政治勢力——再編か、踏襲か おわりに——アメリカのジレンマ	93 97

第6章 ■ パレスチナ・イスラエル——ガザ撤退の政治的位相……………池田明史 ■ 99

はじめに	100	
I	撤退実現によるイスラエル強硬派プロパガンダの後退	101
II	入植地と国家的安全保障との関係の問い直し	103
III	戦略的前提の変遷	105

IV	パレスチナ側の政治動向——ハマースと自治政府との相克	109
V	アッバス自治政府議長の政治基盤	111
	おわりに	113

第7章 ■ **アフガニスタン——「民主化」の行方………田中浩一郎 ■** 115

I	国土の荒廃からテロリストによる支配へ	116
II	対テロ戦争と和平合意	120
III	難航する復興と民主化	126
IV	試されるイニシアチブ	130
	おわりに	132

第8章 ■ **イラン——二〇〇五年選挙と政治潮流の転換………鈴木均 ■** 135

	はじめに	136
I	第九期大統領選挙に至るまでの経緯	137
II	第一回投票結果の分析	142
III	新大統領の当選とその背景	146
	おわりに——イランはどこに行くか	149

第9章 ■ **シリア・レバノン——アメリカの「民主化」要求が強化する「非民主的」体制………青山弘之 ■** 153

	はじめに	154
I	シリアによるレバノン実効支配	154

II	レバノン「占領支配」をめぐるバツシング	158
III	R・ハリリー前首相暗殺後の混乱	161
IV	揺るがぬシリアの支配体制	165
	おわりに	168

第10章 ■ サウジアラビア——テロと民主化……………福田安志 ■ 175

	はじめに	176
I	イスラーム主義の拡大と過激派のテロ	177
II	民主化の動きとテロ問題とのつながり	185
III	テロと民主化問題の行方	191
	おわりに	194

第11章 ■ トルコ——対米関係と内政……………間 寧 ■ 197

	はじめに	198
I	イラク戦争後——関係の修復	199
II	アメリカの要求——内政ではなく外交	201
III	トルコの要求——PKK掃討	203
IV	トルコの期待——北キプロスへの支持	205
	おわりに	208

編者・執筆者紹介 211

福田安志(ふくだ・さだし)

一九四九年生まれ。日本貿易振興機構アジア経済研究所総括審議役。著作に「サウジアラビアの民主化——イスラーム国家と政治改革」(日本国際問題研究所編『湾岸アラブと民主主義』日本評論社、二〇〇五年)などがある。

立山良司(たてやま・りょうじ)

一九四七年生まれ。防衛大学校教授。編著書に『揺れるユダヤ人国家——ポスト・シオニズム』文春新書、二〇〇〇年、『中東』(第三版、国際情勢ベシックシリーズ)自由国民社、二〇〇二年などがある。

西村陽一(にしむら・よういち)

一九五八年生まれ。朝日新聞政治部長。著書に『プロメテウスの墓場——ロシア軍と核の行方』小学館文庫、一九九八年などがある。

渡邊正晃(わたなべ・まさあき)

一九六五年生まれ。日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター中東研究グループ研究員。著作に「カタールの民主化——親米天然ガス立国に向けた課題」(日本国際問題研究所編『湾岸アラブと民主主義』日本評論社、二〇〇五年)などがある。

ディアア・ラシユワン(Dia Rashwan)

一九六〇年生まれ。エジプト出身。カイロ・アハラム政治戦略研究所比較政治研究ユニット長。著作に「Policy of the Bush Administration's on the Middle East Policy,」*Journal of Middle East Studies*, No. 481, 2002/2003 などがある。

酒井啓子（さかい・けいこ）

一九五九年生まれ。東京外国語大学大学院地域文化研究科教授。著書に『フセイン・イラク政権の支配構造』岩波書店、二〇〇三年などがある。

池田明史（いけだ・あきふみ）

一九五五年生まれ。東洋英和女学院大学国際社会学部教授。編著書に『イスラエル国家の諸問題』アジア経済研究所、一九九四年などがある。

田中浩一郎（たなか・こういちろう）

一九六一年生まれ。財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター長兼イラングループ・マネージャー。共著に「アフガニスタンとイラクにおける国連とアメリカ」〔総合研究開発機構他編〕グローバル・ガバナンス——「新たな脅威」と国連・アメリカ」二〇〇六年などがある。

鈴木 均（すずき・ひとし）

一九五八年生まれ。日本貿易振興機構アジア経済研究所新領域研究センター国際関係・紛争研究グループ長代理。編著書に『ハンドブック現代アフガニスタン』明石書店、二〇〇五年などがある。

青山弘之（あおやま・ひろゆき）

一九六八年生まれ。日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター中東研究グループ研究員。著作に「ムハンマド風刺画 反対デモの深層」〔世界〕第七五二号、二〇〇六年四月などがある。

間 寧（はざま・やすし）

一九六一年生まれ。日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター中東研究グループ長。著作に「トルコにおける社会的亀裂と政党制の定着」〔酒井啓子・青山弘之共編〕中東・中央アジア諸国における権力構造』岩波書店、二〇〇五年などがある。

■ 表紙写真 ロイター・サン（2点とも）

情勢分析レポート No.2

アメリカ・ブッシュ政権と揺れる中東

2006年5月26日発行 ©

定価：[本体1,500円] + 税

編者 福田安志

発行所 アジア経済研究所
独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県美浜区若葉3-2-2 〒261-8545

研究支援部 電話 043(299)9735(販売)

FAX 043(299)9736(販売)

E-mail: syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

製作 (株)弦

表紙デザイン 長峰亜里

落丁・乱丁はお取替え致します

無断転載を禁ず

ISBN4-258-30002-0 C3331



9784822410124

ISBN4-8224-1012-9

C3060 ¥2200E



1923060022005

定価： 本体1,500円 + 税

情勢分析レポート

No.2

IDE-JETRO